

平成 24 年度 第5回小平市森のカルテ作成準備委員会 会議要録
及び第5回楽しさ森²調査についての報告

○開催日時

平成 24 年10月28日(曜日) 9時～12時30分

○開催場所

中島町地域センター2階 集会室及び近隣の雑木林の森

○出席者

- 1 小平市森のカルテ作成準備委員会
椎名委員長・山田委員
- 2 雑木林調査隊
9名参加
- 3 事務局
2名

○内容

- 1 椎名委員長ごあいさつ
- 2 清水一夫さんのプロフィール紹介
- 3 第5回楽しさ森²調査(思いで調査編)の実施(午前10時開始、午前11時30分終了)
- 4 近隣マンションの屋上から雑木の森の観察会(午前11時40分開始、午後12時30分終了)

○第5回楽しさ森²調査(思いで調査編)の要録

事務局

【清水さんが持参された空中写真を見ながら。】
お持ちになった空中写真は、いつ頃の写真ですか。

清水さん

この写真は終戦後、昭和23年か24年頃の航空写真である。高圧線が通っているのが見える。文化村(民間の不動産業者が「文化村」として分譲した区域のこと。)があり、これが青梅街道である。

事務局

小さい頃は、どの辺で遊んでいましたか。

清水さん

全部だ。(写真映っているところを全部を示して。)賢ちゃんの先の清一さんのところには水車があったりして、兵隊ごっこしたりして遊んでいた。山や畑に入って遊び、畑に入るとおこられた。昔はどこの家の子どもでも悪いことをすると怒られた。

事務局

昔は雑木林を山と言って、用水路を川と言ったが、山の名前とか決まっていたのか。

清水さん

そうだ、ここが三角山という。(現在の東京コカコーラ小平営業所の南側)その道は山の神の道だと子どもの頃言っていた。神様が降りてくる道と言っていた。

昔は、山口さんの三角山の所に玉石が積んであって、ここにも神様があった。三角形の土地には神が宿ることになっていたから庚申山(神様の山)とも言った。

昔、玉川上水に船が通っていたころ「やじろさん」の家に菊水の旗があったと聞いた。船の底の板が残っていた。玉川上水を掘った記念に菊水の旗をもらったそうだ。子どもの頃それを持って遊んで無くしてしまった。

(玉川上水の通船)

明治3年から5年の2年間だけ通船を許可されていた。野菜や炭などを江戸に運ぶ目的のために整備されたが、飲み水であった玉川上水の水が汚れてきたので廃止となった。ちなみに新堀用水は、分水口がたくさんあると船の通行に支障をきたすので、明治4年に玉川上水の北側に並行して新堀用水が分水されたものである。

調査隊

玉川上水の水かさは、岸边まであったか。

清水さん

梅雨の時期、玉川上水は水が多くて立てないぐらいだった。ケヤキは頑丈で根がすごい。それをつたって降りていったり。水に流されないようにつかまっていた。

遊ぶ場所が無かったから、野火止用水に堰を作っていた。小平の木は切れないから、大和の方の木を切って川に流して、堰を作って水を止めて泳いで遊んだ。

委員長

大和や村山の方の雑木林の木を切って、それを堰にして、水を溜めて泳いだということであるか。小平の方の木を切ってはまずいということか。

清水さん

小平の木を切ったら叱られる。

委員長

何の木を切ったか。

清水さん

マツの木である。

委員長

アカマツが多かったか。

清水さん

中島には、とにかくアカマツが多かった。薬草園のあたりが最初に枯れた。庚申山にもたくさんマツがあった。マツの多い所は土地が悪い。この辺は、権利書には甲乙丙の丙と書いてあった。この辺は丙であった。玉川上水などはマツが全部枯れてしまった。

委員長

枯れたのはいつ頃か。

清水さん

マツ喰い虫に田無の方からやられて全部枯れてしまった。20年くらい前か。

委員長

枯れたマツの木の所は畑なのか。

清水さん

畑ではない。今で言う、さつま床である。何かをたいて、熱を出してさつま床にしていた。

(さつま^{どこ}床)

藁と竹などで周りを囲い、その中に落葉や糠や野菜くずを入れたもので、さつま芋の種苗を育てるために、3月頃に庭や畑の日当たりの良い場所に設置し、6月頃に育ったさつま苗を植え付けする。

委員長

さつま床に堆肥のような役目をもたせたということだ。

清水さん

昭和30年頃の話であるが、廃棄しないで畑にまいた。雨が降ると畑がコチコチに硬くなる。今は化学肥料である。昔はクズをまいて熱を出して堆肥にした。作物もサツマイモがほとんどであった。その後は東京スイカである。次はゴボウ、戦後はナスやトマトに変えた。

調査隊

子どもの頃、雑木林にタヌキやキツネはいたか。

清水さん

キツネはあまりいなかったが、タヌキはいた。我が家にもいた。タヌキの子どもが生まれて可愛いいたぬきが4匹ぐらいいた。いまだにいる。

調査隊

他には、どんな動物がいたか。

清水さん

昔はイタチが多かった。当時はネズミが多く、畑にフランドールとかいう薬をまいてネズミ退治をした。そのネズミをイタチが食べたのでイタチも少なくなった。

委員

多分、殺鼠剤(さつそざい)である。

清水さん

ウサギもいた。大和の方で買って行く人がいたから飼っていた。

調査隊

野ウサギはいたか。

清水さん

茶色の野ウサギも玉川上水や畑にも終戦後まではかなりいた。

調査隊

タヌキ、イタチ、ウサギあたりがいたということか。

清水さん

そうだ。私が生まれたころには、キツネをなめした皮が飾ってあったのを見た。

昔は砂利穴というのがあった。覚えているのは、神山さんの所、宮寺さんの所、いなげや、森田酒店のあたり。

委員長

その穴は井戸であったのか。

清水さん

井戸ではなく、砂利穴と言って10m位掘って砂利を採取していた。当時は電気がないから掘るために空気銃に酸素を入れて使った。砂利をとって道路などに使っていた。砂利をとった所が穴になっていた。

昭和 18 年から19年頃まで小川橋には電気がなかった。その後畑の中を引っ張っていき電気を使っていた。しかし、よく途中で切れて停電をしたようだ。電気がきてラジオを聞けるようになった。戦争中は爆弾がこのあたりにも120数発落ちた。

調査隊

空襲で、この辺の住民も一時は退避することもあったようだ。

清水さん

爆弾だから一瞬真っ赤になった。爆風の破片が木にささり、木がほとんど枯れた。一番大変だったのは焼夷弾(しょういだん)である。玉川上水のあたりに爆弾が落ちた。

調査隊

大和に軍事工場があったから標的になっていたのではないか。

調査隊

昔、小平あたりでは、ギバチという魚を天ぷらにして食べたそうだ。ナマズのような魚だそうだがいたか。

清水さん

いた。他に、ガジガジ(カジカ)、ドジョウ、ハヤたまに大雨が降ったあとはコイがいた。

(ギバチ)

日本固有種である。顎、下顎それぞれに口ひげを持ち、胸びれと背びれには棘を持つ。

(カジカ)

日本固有種である。カサゴの種類、ハゼに似ている。美味で養殖している地方もある。

調査隊

昔のお祭りはどんな感じだったか。

清水さん

神明神社のお祭りで神輿と太鼓だけであった。

調査隊

お米は採れなかったか。

清水さん

ほとんど陸稲(おかぼ)ですよ。

^{おかぼ}
(陸稲)

畑で栽培される稲をいい。野稲(のいな)ともいう。水稲に比べて草型が大きく、葉身が長く大きいので根が発達しており、粒も大きめである。また、収穫率・食味は落ちるものの、水田を作らずに畑で作付けできることから育成が容易であることが特徴。治水の問題で水田が作れない地方において栽培されていた。

調査隊

普段食べるおかずは、どんなものが多かったか。

清水さん

野菜が多かった。所沢から魚の行商が来ていた。

事務局

昔は茶畑が多かったか。

清水さん

多かった。この図面にあるこのあたり一帯がお茶の木だった。

委員長

このスジのついている所が全部そうであるか。

清水さん

そうである。風よけである。冬の北西の強い風が吹いていた。からっ風という。

(からっ^{かぜ}風)

偏西風に乗った雲は、関東の西や北側の山々にぶつかって雨や雪を降らして、乾燥した風となって山を吹き降ろす。そのような形態から「空っ風・からっかぜ」と言われる。

委員長

雑木林もそういう役目をしていたか。

清水さん

そうだと思う。今は無いが、12小通りのところに幅三間、4mか5mくらいだったが、ナラ、クヌギの木が並んだ防風林があった。

委員長

風は土を運んでしまったか。

清水さん

運んでいた。お茶の木の近くに土が溜まっていた。

調査隊

雑木林には、どんなキノコが生えていたか。

清水さん

マツタケの他にシメジやハツタケがあった。マツの根っこに 2 本か3本しか生えないマツタケを焼いて食べたのが一番美味しかった。シメジなどは、山梨のホウトウのようにうどんと煮込んで食べた。

調査隊

そのキノコは売ることはできたのか。

清水さん

売ることはできない。

委員長

こういう、山のくず掃き(落葉掃き)する所は誰でも使えるのか。

清水さん

地主からくず掃き(落葉掃き)権利を買って草をもらう。

調査隊

どんなふうにして木を切ったり、薪にしていたか。

清水さん

私の親父なんかは、クヌギは15年で切り、ナラの木は18年～20年で切る。クヌギ林など自分で3回くらい切った。

委員長

萌芽更新である。それは、一反分など買った所を全部切るのか。

(^{いったん}一反)

尺貫法の面積の単位である。一反とは、約 991.74 m²、約 31.5m 四角の面積となる。

清水さん

そうである。しかし、一本だけ残す。切った木を出すのに邪魔にならない所の木を残す。山の神様のために残した。

調査隊

残した木の特別な呼び方があったか。

清水さん

特になかった。切った後に、皆でお酒を飲み、その酒を、一本残す木にかけて清めた。山に入って作業をする時に怪我がないように願った。

委員長

1本残すのは小さい木で、次の時にわからなくなって、また別の小さい木を残していくということか。

清水さん

そうである。

調査隊

それは次に続くような願いがこもったりするのか。

清水さん

それは無い。残した木もわからなくなったらそれで終わりである。次の時はその土地を買う人が違ってくるから。

調査隊

その薪は売ったのか。

清水さん

自家用である。

事務局

終戦後も同じやり方をしたか。

清水さん

同じである。上水新町地域センター近くの大きな森も2、3回くらい切った。マツは残した。

委員長

切った木は、薪の他に、シイタケのホダ木とかには使ったか。

(ホダ木)

一定の長さに切断した木を数ヶ月間乾燥させ、シイタケなどのキノコの種菌を木に接種し天然と同じ様な環境に置き、翌年秋の発生を待つといった原木栽培に使用される木のことをホダ木という。ミズナラ、シイ、サクラ、クヌギ、コナラ、ブナ、カキ、

クリ、クヌギなどの落葉広葉樹が利用されるがイチヨウは向かない。また、ケヤキはエノキタケ、タモギタケ、ナメコ、ヒラタケ等栽培用のホダ木として利用されている。

清水さん

多少やった。ミで穴を掘って、それ切って四角にして、皮をはいで、皮をもとに戻して釘で止めてシイタケを作った。

委員長

「うちだったら何年ぐらいもつか、このくらい欲しいな」というので買うのか。一反単位であったり山買いであったりしていたのであろう。また、その時の作業はノコギリであるか。どのくらいの太さか。

清水さん

そうである。15～20年位の木である。ノコギリで、結構短時間で切れた。

調査隊

マツは大変だったか。マツヤニが出るか。

清水さん

マツヤニのためにノコギリに石油を塗っておいた。

委員

平成12年から3年連続調査した雑木林では、マツの木は43本だった。現在は16本である。清水さんのお話のような伐採のやり方だとマツは残らないが。

清水さん

地主さんにマツの木は残してくれと言われてマツは残した。三代ぐらいは伐採しなかった。マツは建築材料に使ったから。

委員長

マツは本格的な木コリが来て切って、乾かして家屋の梁に使ったということか。

清水さん

そうである。小山さんこのマツを切ったのは経木(きょうぎ)業者である。

調査隊

経木とは何か。

委員長

タケの皮で肉などを包装してあるが、経木とは、その包装材を木で作ったものである。

調査隊

木を1本残すという話しが興味深かったが、雑木林にまつわる言い伝えや不思議な話しはあるか。

清水さん

あまりない。小学生の頃、上水のサワラの木の種類が飛んできてはえてくるので、よく文化村の所に植えに行っていた。

調査隊

文化村ってなんですか。

清水さん

文化村という名の建物会社だったかな。

委員

文化村とい名称で分譲された場所、南台樹林公園の南側のマツ林を開発した。小説家などの文化人が住んでいた。今もサワラが残っていると思う。

委員長

サワラは境界の目印とかに植えたか。

清水さん

それもあるが、サワラは建築用材にはならなかったが、桶に使われた。

調査隊

馬場さんに聞いたが、昔は薪とかに使っていたが、もう薪を使わないから木を切るのをやめてしまったと聞いた。

清水さん

石油を使うようになってきたから。木を切るのをやめた。薪は手がかかるから。

委員長

屋根は萱か麦か。萱場はどうだったか。

清水さん

萱である。山(雑木林)で木を切ったあとに生えた萱を刈り取って1~2年貯めておいた。

委員長

その時にも萱を刈る権利を買ったのか。

清水さん

そうである。

事務局

萱はどこに保管したか。

清水さん

裏に、そだ小屋があってそこに貯めておいた。共同でやった。

(そだ小屋)

粗朶(そだ)は、切り取った雑木の枝などをいう。薪に用いるほか、粗朶巻などは水中に沈めて魚を誘引し、網をかけて一緒に引き上げる漁法にも使われる。粗朶小屋とは、その粗朶を保管する小屋のこと。

調査隊

青梅街道のまわりはケヤキの木があったか。

清水さん

山口さん、小野さん、師岡さんのところは、大きなケヤキやスギの木があった。かくれんぼをした。そこは冬でも霜が降りないから。

委員長

スギなどの大木は冬にもまだ葉がついているから、その木の下は雨にぬれないので霜が降りないということか。ある本に、「畑の中にナラの青い葉をすり込んだ」と書いてあったが本当か。

清水さん

戦後である。山(雑木林)の下草を刈って、地主さんがそれを作物に敷いたりした。

委員長

下草や藁を敷いた、すなわちマルチングに利用した。

(マルチング)

地表面の飛散、流出の防止、雑草の生育抑制、保温、保湿による植物生育の促進の為に地表面をなんらかの方法で覆うこと。

委員長

最初に新田開発をした時に来た人が地主か。

清水さん

土着の人間が、山口さん、師岡さん、川窪さん、竹内さん、宮寺さん達が有力者だったらしい。第一小学校の校庭は妙法寺っていう寺だった。野中の妙興寺というのがあって、小川寺は小川さんの系統である。

事務局

ちなみに、昭和31年の調査で、小川に多い姓は、加藤さん22世帯、小山さん21世帯、小野さん17世帯、清水さん17世帯である。

清水さん

清水というのは、東村山の貯水池の所に清水村というのがあって、そこから出てきた。竹内さんは大和の狭山というところから出てきた。師岡さんが、馬の伯楽で青梅から材木を引いてきてやったとい話も聞いた。青梅街道の道が広いところで、馬をつないでやっていたという話しである。

はくらく
(伯楽)

馬の素質の良否をよく見分ける人。また、牛馬の病気を治す人。更に馬の売買を仲介する人の意味もある。

委員長

馬頭観音が結構あるから、街道筋は農業をやると同時に、馬を買ったり馬を生業にしていたのだろう。

清水さん

小川の三差路の所に馬頭様(石仏)があった。周りで子どもが遊んで、ヨモギを棒で突っついて凹んでいた。今は小川寺に移動した。

調査隊

それは石(台座)がへこんで穴があいたのか。今も小川寺にあるのか。ぜひ子ども達を連れて見せたい。

清水さん

そうである。馬頭観音は小川さんが建てたから名前が入っている。子どもがヨモギを棒で突っついて石も柔らかかったので穴が空いたのであろう。

委員

木を切る時は、家族の中でどんな役割だったか。

清水さん

家族だけでなく部落がまとまって共同で行った。男衆だけである。昔は青年団があり、官地に、桑を植えたり、マツを切ったり植えたりした。27歳くらいまでは青年団に入っていた。

事務局

松の木通りのマツは青年団が植えたと聞いたことがあるが。

清水さん

そうである。マツは枝を青年団で、切って売ったりした。

委員長

誰に売ったのか。

清水さん

村に鑑定士がいて、小川一番とか二番に売った。

事務局

マツを植えたのはいつごろか。

清水さん

戦後だと思うが。

調査隊

戦後21年と聞いているが。

委員長

雑木林の下草にきれいな花は咲いていたか。

清水さん

20年から30年前は野火止用水沿いにボウズクリ(ワレモコウ)がお彼岸(秋)の時に咲いていた。

(ワレモコウ)

ワレモコウ(吾亦紅、吾木香)は、バラ科・ワレモコウ属の植物。草地に生える多年生草本。秋に茎を伸ばし、その先に穂状の可憐な花をつける。穂は短く楕円形こつまり、暗紅色に色づく。「われもこうありたい」という思いをこめて名づけられたという説もある。

委員長

カタクリはあったか。

清水さん

あまりなかった。チガヤ、カヤが多かった。小さいリンドウの子どもみたいなのが咲いてた。下草刈りで結構切っていたが、いろんな草花が咲いていた。

事務局

お忙しい中ありがとうございました。引続き近隣のマンションの許可を得て、屋上の高所よりの森の撮影会を行いますので移動をお願いいたします。思い出調査はここで終了となります。清水さま大変ありがとうございました。

(雑木の森関係)以上

(以下は玉川上水・用水路関係をまとめた要録)

調査隊

玉川上水に船が通っていたのは何年頃か。

清水さん

それはわからない。

調査隊

何のために玉川上水に船が通っていたのか。

清水さん

穀物をはこんだりしたと聞いている。羽村から来て淀橋行きであった。その先は淀橋に入ったという話しである。私の母の話しでは、四谷まで入ったらしい。

事務局

深かったのか。

清水さん

船が通るくらいだから深かっただろう。

事務局

この写真を見て、小さいころこんな感じであったか。

清水さん

変わらないが、もっとマツの木が多かった。

事務局

この写真の中の玉川上水の先端にちょっとした山があるが遊んだことはあるか。

清水さん

ある。皆で遊んだ。小川用水は小川橋までトンネルがある。潜って魚釣りなどをした。空気抜き穴があった。

委員長

そこの所だけ明るいか。水の流れは早かったか。

清水さん

水があるとトンネルには行かれない。

年に一度、水が止った時にトンネルに入って遊んだことがある。鯉などたくさん水たまりにいた。

事務局

今は、水を止めることを沼さらい、沼あげと言いますが、そういうことはやっていたか。

清水さん

昔からやっていた。今は市から補助をもらって何人かでやっている。昔は地区ごとにやっていて、「関係ない」なんて言う人はいなかった。

調査隊

台所で使う水はどこから引いてきたか。

清水さん

最初は、野火止めも水がきれいだったから、民家もなかったので、朝早く川から汲んで置いておいた。風呂も汲んできた水を沸かした。

調査隊

井戸はなかったか。

清水さん

井戸は三差路の所、小川寺の所、佐藤さん、若林さんの所、新東京の前のヤマギさんの所、小平建設のところにもあった。一小学校の入口の所、始終通ったから今でも覚えている。

調査隊

小平は、まいまいず井戸と聞いていたがそんなものはなかったか。

清水さん

なかった。つるべ式である。

委員長

まいまいず井戸を使っていたのは大昔である。

清水さん

栄町から新小平の方が一番窪んでいた。水がでたのは昭和15年くらいだったか。

委員長

今でもそんな感じである。

調査隊

玉川上水からは水を汲まなかったか。

清水さん

この辺の青梅橋区域は、野火止に5mくらいの階段を作っており、そこに水を汲みにいった。

調査隊

畑に水はどうやってまいたか。

清水さん

そんなことはできない。用水は飲み水である。

事務局

いつ頃まで飲んでいたか。

清水さん

子どもの頃、川で飲んでいて。戦後も飲んでいて。飲んでも体調は平気だった。

調査隊

お風呂はどのくらい入っていたか。

清水さん

2日に一回ぐらいは入っていた。

○近隣マンションの屋上から雑木の森の観察会

近隣マンションの12階の屋上から玉川上水や野火止用水、隣接している雑木の森を観察した。

以下内容は省略。

以上